

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-189494

(P2017-189494A)

(43) 公開日 平成29年10月19日(2017. 10. 19)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
D06F 87/00 (2006.01)	D06F 87/00	A
D06F 69/00 (2006.01)	D06F 69/00	
D06F 71/20 (2006.01)	D06F 71/20	
D06F 71/22 (2006.01)	D06F 71/22	
D06F 71/24 (2006.01)	D06F 71/24	
審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 15 頁)		

(21) 出願番号 特願2016-81852 (P2016-81852)
 (22) 出願日 平成28年4月15日 (2016. 4. 15)

申請有り

(71) 出願人 306009352
 株式会社TAKUMA SYSTEM
 福岡県福岡市東区和白3丁目4番11号
 (71) 出願人 593003570
 株式会社オリタニ
 東京都葛飾区細田3-2-9
 (74) 代理人 100108497
 弁理士 小塚 敏紀
 (72) 発明者 藤井 憲治
 福岡県福岡市東区和白3丁目4-11 株
 式会社TAKUMA SYSTEM本社内

(54) 【発明の名称】 業務用クリーニング方法と業務用加熱プレス機

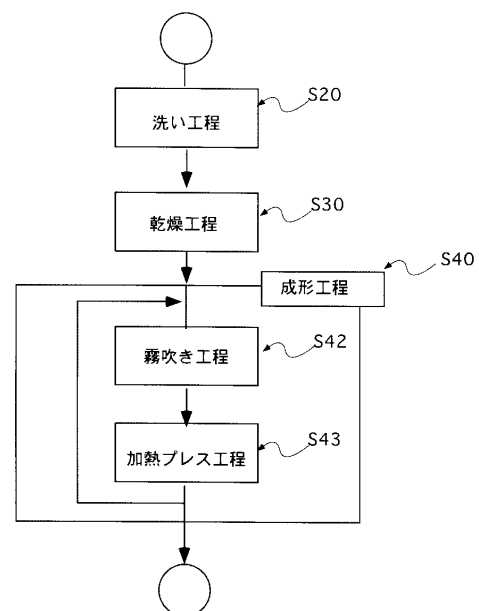
(57) 【要約】

【課題】 新しい業務用クリーニング方法とその方法に用いるための業務用加熱プレス機を提供しようとする。

【解決手段】

従来の衣服を業務としてクリーニングする業務用クリーニング方法に変わって、衣服を洗う洗い工程と、洗われた衣服を熱風で乾燥させる乾燥工程と、乾燥した衣服をプレスするプレス工程と、を備え、前記プレス工程が、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位に霧吹きする霧吹き工程と、霧吹きされた特定部位を加熱プレスする加熱プレス工程と、を有するものとする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

衣服を業務としてクリーニングする業務用クリーニング方法であって、
衣服を洗う洗い工程と、
洗われた衣服を乾燥させる乾燥工程と、
乾燥した衣服を成形する成形工程と、
を備え、
前記成形工程が、
乾燥した衣服の特定の部位である特定部位に霧吹きする霧吹き工程と、
霧吹きされた特定部位を加熱プレスする加熱プレス工程と、
を有する、
ことを特徴とする業務用クリーニング方法。

10

【請求項 2】

衣服の前記特定部位を保持できるダミーまたは鋳である保持部材と鋳との間に衣服を挟んで加熱プレスする加熱プレス機を準備する準備工程と、
を備え、
前記成形工程が、
乾燥した衣服の前記特定部位を前記保持部材に保持させるセット工程と、
を有し、
前記加熱プレス工程が前記保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスして霧吹きされた特定部位を加熱プレスする、
ことを特徴とする請求項 1 に記載の業務用クリーニング方法。

20

【請求項 3】

前記霧吹き工程が前記保持部材に保持された乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする、
ことを特徴とする請求項 2 に記載の業務用クリーニング方法。

【請求項 4】

複数の衣服の各々毎に前記洗い工程と前記乾燥工程と前記プレス工程とを繰り返し、
前記プレス工程が複数の前記特定部位の各々毎に前記セット工程と前記霧吹き工程と前記加熱プレス工程と繰り返し、
ことを特徴とする請求項 3 に記載の業務用クリーニング方法。

30

【請求項 5】

衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスする業務用加熱プレス機であって、
特定部位を保持できるダミーまたは鋳である保持部材と、
特定部位に霧吹きできる霧吹き機器と、
前記保持部材に保持された特定部位をプレスできる鋳と、
前記保持部材に保持された特定部位を前記鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する加熱装置と、
を備える、
ことを特徴とする業務用加熱プレス機、

40

【請求項 6】

前記霧吹き機器が前記保持部材に保持された特定部位に霧吹きできる、
ことを特徴とする請求項 5 に記載の業務用加熱プレス機。

【請求項 7】

衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスする業務用加熱プレス機であって、
特定部位を保持できるダミーまたは鋳である保持部材と、
特定部位に霧吹きできる霧吹き機器と、
前記保持部材に保持された特定部位をプレスできる鋳と、
前記保持部材と前記鋳との相対位置を第一ポジションと第二ポジションとの間で往来させ

50

る往来機器と、
前記保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する加熱装置と、
を備え、
前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第一ポジションに位置するときに特定部位を前記保持部材に保持させることをでき、
前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第二ポジションに位置するときに前記保持部材に保持された特定部材を前記鋳でプレスできる、
ことを特徴とする業務用加熱プレス機、

【請求項 8】

10

前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第一ポジションから前記第二ポジションへ移動する過程のどこかで、
前記霧吹き機器が前記保持部材に置かれた特定部位に霧吹きできる、
ことを特徴とする請求項 7 に記載の業務用加熱プレス機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、衣服を業務としてクリーニングする業務用クリーニング方法とそのための業務用加熱プレス機

【背景技術】

20

【0002】

クリーニング業は、衣服を業務としてクリーニングする業態である。

【0003】

一般的な業務用クリーニング方法は、洗い機と脱水機と加熱プレス機を用いて行う。

洗い機を用いて衣服を洗い、脱水機を用いて洗った衣服を脱水し、加熱プレス機を用いて脱水した衣服を加熱プレスする。

【0004】

業務用加熱プレス機は、衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスする。

業務用加熱プレス機は、保持部材と鋳と加熱装置とで構成される。

30

保持部材は、特定部位を保持するものである。保持部材が鋳であることもある。

鋳は、保持部材に置かれた特定部位に被せることができる。

加熱装置は、保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する機器である。

この加熱プレス機を用いると、脱水された衣服から水分を飛ばして乾燥させ、さらに衣服に熱を加えて生地を整えることができる。

【0005】

加熱装置は、脱水された衣服から水分を飛ばし乾燥させるために必要な熱量を衣服に加える。

加熱装置が衣服に加える熱量は、脱水された衣服から水分を飛ばして乾燥させるのには十分であるが、衣服の生地を整えるのには多過ぎることが知られている。

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は以上に述べた問題点に鑑み案出されたもので、新しい業務用クリーニング方法とその方法に用いるための業務用加熱プレス機を提供しようとする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記目的を達成するため、本発明に係る衣服を業務としてクリーニングする業務用クリーニング方法であって、衣服を洗う洗い工程と、洗われた衣服を熱風で乾燥させる乾燥工

50

程と、乾燥した衣服を成形する成形工程と、を備え、前記成形工程が、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位に霧吹きする霧吹き工程と、霧吹きされた特定部位を加熱プレスする加熱プレス工程と、を有するものとする。

【0008】

上記本発明の構成により、洗い工程は、衣服を洗う。乾燥工程は、洗われた衣服を熱風で乾燥させる。霧吹き工程は、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位に霧吹きする。加熱プレス工程は、霧吹きされた特定部位を加熱プレスする。

その結果、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

【0009】

以下に、本発明の実施形態に係る業務用クリーニング方法を説明する。本発明は、以下に記載した実施形態のいずれか、またはそれらの中の二つ以上が組み合わされた態様を含む。

【0010】

本発明の実施形態に係る業務用クリーニング方法は、衣服の前記特定部位を保持できるダミーまたは鋳である保持部材と鋳との間に衣服を挟んで加熱プレスする加熱プレス機を準備する準備工程と、衣服を洗う洗い工程と、洗われた衣服を乾燥させる乾燥工程と、乾燥した衣服を成形する成形工程と、を備え、前記成形工程が、乾燥した衣服の前記特定部位を前記保持部材に保持させるセット工程と、乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする霧吹き工程と、前記保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスして霧吹きされた特定部位を加熱プレスする加熱プレス工程と、を有する、ものとする。

上記の実施形態の構成により、準備工程は、衣服を保持する保持部材と鋳とに衣服を挟んで加熱プレスする加熱プレス機を準備する。洗い工程は、衣服を洗う。乾燥工程は、洗われた衣服を乾燥させる。成形工程は、乾燥した衣服を成形する。前記成形工程のセット工程は、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位を保持部材に保持される。前記成形工程の霧吹き工程は、乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする。前記成形工程の加熱プレス工程は、前記保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスして霧吹きされた特定部位を加熱プレスする。

その結果、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに略必要十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

【0011】

本発明の実施形態に係る業務用クリーニング方法は、前記霧吹き工程が前記保持部材に保持された乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする。

上記の実施形態の構成により、前記霧吹き工程は、前記霧吹き工程が前記保持部材に保持された乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする。

その結果、容易に特定部位に霧吹きできる。

【0012】

本発明の実施形態に係る業務用クリーニング方法は、複数の衣服の各々毎に前記洗い工程と前記乾燥工程と前記成形工程とを繰り返し、前記成形工程が複数の前記特定部位の各々毎に前記セット工程と前記霧吹き工程と前記加熱プレス工程とを繰り返す。

上記の実施形態の構成により、複数の衣服の各々毎に前記洗い工程と前記乾燥工程と前記成形工程とを繰り返す。前記成形工程が複数の前記特定部位の各々毎に前記セット工程と前記霧吹き工程と前記加熱プレス工程とを繰り返す、

その結果、一つの衣服について最適の熱量の入力によって衣服をクリーニングできる。

【0013】

上記目的を達成するため、本発明に係る衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスする業務用加熱プレス機であって、特定部位を保持できるダミーまたは鋳である保持部材と、特定部位に霧吹きできる霧吹き機器と、前記保持部材に保持された特定部位をプレスできる鋳と、前記保持部材に保持された特定部位を前記鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する加熱装置と、を備える、ものとした。

【0014】

上記本発明の構成により、保持部材は、特定部位を保持できるダミーまたは鋳である。霧吹き機器は、特定部位に霧吹きできる。鋳は、前記保持部材に保持された特定部位をプレスできる。加熱装置は、前記保持部材に保持された特定部位を前記鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する。

その結果、加熱前に乾燥した衣服の特定部位に霧吹きすることで、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

【0015】

以下に、本発明の実施形態に係る業務用加熱プレス機を説明する。本発明は、以下に記載した実施形態のいずれか、またはそれらの中の二つ以上が組み合わされた態様を含む。

10

【0016】

本発明の実施形態に係る業務用加熱プレス機は、前記霧吹き機器が前記保持部材に保持された特定部位に霧吹きできる。

上記の実施形態の構成により、前記霧吹き機器が前記保持部材に保持された特定部位に霧吹きできる。

その結果、容易に特定部位に霧吹きできる。

【0017】

上記目的を達成するため、本発明に係る衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスする業務用加熱プレス機であって、特定部位を保持できるダミーまたは鋳である保持部材と、特定部位に霧吹きできる霧吹き機器と、前記保持部材に保持された特定部位をプレスできる鋳と、前記保持部材と前記鋳との相対位置を第一ポジションと第二ポジションとの間で往来させる往来機器と、前記保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する加熱装置と、を備え、前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第一ポジションに位置するときに特定部位を前記保持部材に保持させることをでき、前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第二ポジションに位置するときに前記保持部材に保持された特定部位を前記鋳でプレスできる、ものとした。

20

【0018】

上記本発明の構成により、保持部材は、特定部位を保持できるダミーまたは鋳である。霧吹き機器は、特定部位に霧吹きできる。鋳は、前記保持部材に保持された特定部位をプレスできる。往来機器は、前記保持部材と前記鋳との相対位置を第一ポジションと第二ポジションとの間で往来させる。加熱装置は、前記保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する。前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第一ポジションに位置するときに特定部位を前記保持部材に保持させることをできる。前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第二ポジションに位置するときに前記保持部材に保持された特定部位を前記鋳でプレスできる、

30

その結果、加熱前に乾燥した衣服の特定部位に霧吹きすることで、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

【0019】

以下に、本発明の実施形態に係る加熱プレス機を説明する。本発明は、以下に記載した実施形態のいずれか、またはそれらの中の二つ以上が組み合わされた態様を含む。

40

【0020】

本発明の実施形態に係る加熱プレス機は、前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第一ポジションから前記第二ポジションへ移動する過程のどこかで、前記霧吹き機器が前記保持部材に置かれた特定部位に霧吹きできる。

上記の実施形態の構成により、前記保持部材と前記鋳との相対位置が前記第一ポジションから前記第二ポジションへ移動する過程のどこかで、前記霧吹き機器が前記保持部材に置かれた特定部位に霧吹きできる。

その結果、容易に特定部位に霧吹きできる。

【発明の効果】

50

【0021】

以上説明したように、本発明に係る衣服を業務としてクリーニングする業務用クリーニング方法は、その構成により、以下の効果を有する。

衣服を洗い、洗われた衣服を熱風で乾燥し、乾燥した衣服の特定部位に霧吹きし、霧吹きされた特定部位を加熱プレスする様にしたので、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

また、保持部材と鋺との間に衣服を挟んで加熱プレスする加熱プレス機を用い、乾燥した衣服の特定部位を保持部材で保持し、そこに鋺でプレスして霧吹きされた特定部位を加熱プレスする様にしたので、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

10

また、保持部材に保持された乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする様にしたので、容易に特定部位に霧吹きできる。

また、一つの衣服について前記洗い工程と前記乾燥工程と前記成形工程とを実施し、前記成形工程で複数の前記特定部位の各々毎に前記セット工程と前記霧吹き工程と前記加熱プレス工程と繰り返す様にしたので、一つの衣服について最適の熱量の入力によって衣服をクリーニングできる。

【0022】

以上説明したように、本発明に係る衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスする業務用加熱プレス機は、その構成により、以下の効果を有する。

20

霧吹きされた特定部位を保持部材が保持し、保持部材に保持された特定部位を鋺でプレスし、その状態で特定部位を加熱する様にしたので、加熱前に乾燥した衣服の特定部位に霧吹きすることで、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

また、前記霧吹き機器が前記保持部材に保持された特定部位に霧吹きできる様にしたので、容易に特定部位に霧吹きできる。

第一ポジションに位置する保持部材に特定部位を保持され、特定部位が霧吹きされ、往来して第二ポジションに位置する保持部材に保持された特定部位を鋺でプレスし、加熱プレスする様にしたので、加熱前に乾燥した衣服の特定部位に霧吹きすることで、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

30

また、保持部材が前記第一ポジションから前記第二ポジションへ移動する過程のどこかで、前記保持部材に保持された特定部位に霧吹きできる様にしたので、容易に特定部位に霧吹きできる。

従って、新しい業務用クリーニング方法とその方法に用いるための加熱プレス機を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】本発明の第一の実施形態に係る業務用クリーニング方法のフロー図である。

【図2】本発明の第二の実施形態に係る業務用クリーニング方法その1のフロー図である。

40

【図3】本発明の第二の実施形態に係る業務用クリーニング方法その2のフロー図である。

【図4】本発明の第二の実施形態に係る業務用クリーニング方法その3のフロー図である。

【図5】本発明の第一の実施形態に係る加熱プレス機のシステム図である。

【図6】本発明の第二の実施形態に係る加熱プレス機のシステム図である。

【図7】加熱プレス機の例その1の斜視図である。

【図8】加熱プレス機の例その2の斜視図である。

【図9】加熱プレス機の例その3の斜視図である。

50

【発明を実施するための形態】**【0024】**

以下、本発明を実施するための形態を、図面を参照して説明する。

【0025】

本発明の第一の実施形態にかかる業務用クリーニング方法を、図を基に、説明する。

図1は、本発明の第一の実施形態に係る業務用クリーニング方法のフロー図である。

【0026】

本発明の第一の実施形態にかかる業務用クリーニング方法は、衣服を業務としてクリーニングする方法である。

本発明の第一の実施形態にかかる業務用クリーニング方法は、洗い工程S20と乾燥工程S30と成形工程S40とで構成される。 10

以下では、衣服をワイシャツであるとして、説明する。

【0027】

複数の衣服の各々毎に、洗い工程S20と乾燥工程S30と成形工程S40とを繰り返す。

【0028】

洗い工程S20は、衣服を洗う工程である。

例えば、洗い工程S20は、衣服を水洗いする工程である。

洗い工程S20は、洗浄装置を用いて衣服を洗う。

洗い工程S20は、ドラム式洗浄装置を用いて衣服を洗ってもよい。 20

洗い工程S20は、ドラム式洗浄装置を用いて衣服を洗い、濯ぎをしてもよい。

例えば、洗い工程S20は、ドラム式洗浄装置を用いて衣服を洗い、濯ぎをして、脱水をする。

洗い工程S20を実施すると、衣服の汚れが除去される。

【0029】

乾燥工程S30は、洗われた衣服を乾燥させる工程である。

乾燥工程S30は、洗われた衣服を熱風で乾燥させてもよい。

乾燥工程S30は、熱風乾燥装置を用いて洗われた衣服を熱風で乾燥させてもよい。

乾燥工程S30は、ドラム式熱風乾燥装置を用いて洗われた衣服を熱風で乾燥させてもよい。 30

例えば、乾燥工程S30は、ドラム式熱風乾燥装置を用いて洗われた衣服を熱風で乾燥させる。

乾燥工程S30を実施すると、衣服は乾燥した状態になる。

【0030】

成形工程S40は、乾燥した衣服を成形する工程である。

成形工程S40は、霧吹き工程S42と加熱プレス工程S43とで構成される。

【0031】

成形工程で、複数の特定部位の各々毎に霧吹き工程S42と加熱プレス工程S43とを繰り返す。

成形工程で、複数の特定部位群の各々毎に霧吹き工程S42と加熱プレス工程s43とを繰り返す。 40

特定部位群は、左右一対の特定部位で構成されてもよい。

例えば、特定部位群は、ワイシャツの左右一対のカフス、左右一対の袖、等である。

例えば、特定部材は、ワイシャツの衿、ボディ、等である。

【0032】

霧吹き工程S42は、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位に霧吹きする工程である。

ここで、特定部位は、後の加熱プレス工程S50で加熱プレスする工程である。

例えば、乾燥したワイシャツの左右一対のカフに霧吹きする。

例えば、乾燥したワイシャツの左右一対の袖に霧吹きする。 50

例えば、乾燥したワイシャツの衿に霧吹きする。

霧吹き工程 S 4 2 を実施すると、衣服の特定部位に液滴が付着する。

【0033】

加熱プレス工程 S 4 3 は、霧吹きされた特定部位を加熱プレスする工程である。

加熱プレス工程 S 4 3 は、保持部材に置かれ霧吹きされた特定部位を加熱プレスしてもよい。

加熱プレス工程 S 4 3 は、保持部材に保持された後で、霧吹きされた特定部位を加熱プレスしてもよい。

加熱プレス工程 S 4 3 は、特定部位を霧吹きされた後で、保持部材に保持された特定部位を加熱プレスしてもよい。

10

保持部材は、鋳を兼ねていてもよい。

保持部材は、下側の鋳を兼ねていてもよい。

加熱プレス工程 S 4 3 を実施すると、衣服の生地が整えられる。

また、従来の加熱プレス工程にくらべて、必要な熱量が少なくて済む。

その結果、衣服の生地につやがでる。

【0034】

次に、本発明の第二の実施形態にかかる業務用クリーニング方法を、図を基に、説明する。

図 2 は、本発明の第二の実施形態に係る業務用クリーニング方法その 1 のフロー図である。

20

【0035】

本発明の第二の実施形態にかかる業務用クリーニング方法は、衣服を業務としてクリーニングする方法である。

本発明の第二の実施形態にかかる業務用クリーニング方法は、準備工程 S 1 0 と洗い工程 S 2 0 と乾燥工程 S 3 0 と成形工程 S 4 0 とで構成される。

以下では、衣服をワイシャツであるとして、説明する。

【0036】

複数の衣服の各々毎に、洗い工程 S 2 0 と乾燥工程 S 3 0 と成形工程 S 4 0 とを繰り返す。

【0037】

30

準備工程 S 1 0 は、業務用加熱プレス機 1 0 0 を準備する工程である。

業務用加熱プレス機 1 0 0 は、保持部材 1 1 0 と鋳 1 3 0 との間に衣服を挟んで加熱プレスする装置である。

業務用加熱プレス機 1 0 0 は、保持部材 1 1 0 と鋳 1 3 0 との間に衣服の特定部位を挟んで加熱プレスしてもよい。

保持部材 1 1 0 は、衣服の前記特定部位を保持できるダミーまたは鋳である。

ダミーは、人体の一部または全体の形状を模したものである。

下鋳は、下側の鋳である。

例えば、保持部材 1 1 0 は、プレス台である。

例えば、保持部材 1 1 0 は、鋳を兼ねる。

40

【0038】

洗い工程 S 2 0 は、衣服を洗う工程である。

例えば、洗い工程 S 2 0 は、衣服を水洗いする工程である。

洗い工程 S 2 0 は、洗浄装置を用いて衣服を洗う。

洗い工程 S 2 0 は、ドラム式洗浄装置を用いて衣服を洗ってもよい。

洗い工程 S 2 0 は、ドラム式洗浄装置を用いて衣服を洗い、濯ぎをしてもよい。

例えば、洗い工程 S 2 0 は、ドラム式洗浄装置を用いて衣服を洗い、濯ぎをして、脱水をする。

洗い工程 S 2 0 を実施すると、衣服の汚れが除去される。

【0039】

50

乾燥工程 S 3 0 は、洗われた衣服を乾燥させる工程である。

乾燥工程 S 3 0 は、洗われた衣服を熱風で乾燥させてもよい。

乾燥工程 S 3 0 は、熱風乾燥装置を用いて洗われた衣服を熱風で乾燥させてもよい。

乾燥工程 S 3 0 は、ドラム式熱風乾燥装置を用いて洗われた衣服を熱風で乾燥させてもよい。

例えば、乾燥工程 S 3 0 は、ドラム式熱風乾燥装置を用いて洗われた衣服を熱風で乾燥させる。

乾燥工程 S 3 0 を実施すると、衣服は乾燥した状態になる。

【0040】

成形工程 S 4 0 は、乾燥した衣服を成形する工程である。

10

成形工程 S 4 0 は、セット工程 S 4 1 と霧吹き工程 S 4 2 と加熱プレス工程 S 4 3 とで構成される。

【0041】

成形工程 S 4 0 で、複数の特定部位の各々毎にセット工程 S 4 1 と霧吹き工程 S 4 2 と加熱プレス工程 S 4 3 とを繰り返す。

成形工程 S 4 0 で、複数の特定部位群の各々毎にセット工程 S 4 1 と霧吹き工程 S 4 2 と加熱プレス工程 S 4 3 とを繰り返す。

特定部位群は、互いに関連する複数の特定部位である。

特定部位群は、左右一対の特定部位で構成されてもよい。

例えば、特定部位群は、ワイシャツの左右一対のカフス、左右一対の袖、等である。

20

例えば、特定部材は、ワイシャツの衿、ボディ、等である。

【0042】

セット工程 S 4 1 は、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位を保持部材 1 1 0 に保持させる工程である。

ここで、特定部位は、後の加熱プレス工程 S 5 0 で加熱プレスする工程である。

例えば、乾燥したワイシャツの左右一対のカフに霧吹きする。

例えば、乾燥したワイシャツの左右一対の袖に霧吹きする。

例えば、乾燥したワイシャツの衿に霧吹きする。

セット工程 S 4 1 を実施すると、衣服の特定部位が保持部材 1 1 0 に保持される。

【0043】

30

霧吹き工程 S 4 2 は、乾燥した衣服の特定の部位である特定部位に霧吹きする工程である。

霧吹き工程 S 4 2 は、セット工程 S 4 1 を実施した後で実施しても良い。

図 3 は、セット工程 S 4 1 を実施した後で霧吹き工程 S 4 2 を実施する様子を示す。

例えば、保持部材 1 1 0 に保持された乾燥した衣服の特定部位に霧吹きしてもよい。

霧吹き工程 S 4 2 を実施した後で、セット工程 S 4 1 を実施してもよい。

図 4 は、霧吹き工程 S 4 2 を実施した後でセット工程 S 4 1 を実施する様子を示す。

霧吹き工程 S 4 2 を実施すると、衣服の特定部位に液滴が付着する。

【0044】

加熱プレス工程 S 4 3 は、保持部材 1 1 0 に保持された特定部位を鋳 1 3 0 でプレスして霧吹きされた特定部位を加熱プレスする工程である。

40

保持部材 1 1 0 は、鋳を兼ねていてもよい。

保持部材 1 1 0 は、下側の鋳を兼ねていてもよい。

加熱プレス工程 S 4 3 を実施すると、衣服の生地が整えられる。

また、従来の加熱プレス工程にくらべて、必要な熱量が少なくて済む。

その結果、衣服の生地につやがでる。

【0045】

次に、本発明の第一の実施形態にかかる業務用加熱プレス機を、図を基に、説明する。

図 5 は、本発明の第一の実施形態に係る業務用加熱プレス機のシステム図である。

【0046】

50

本発明の第一の実施形態にかかる業務用加熱プレス機は、衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスするものである。

本発明の第一の実施形態にかかる業務用加熱プレス機は、保持部材１１０と霧吹き機器１２０と鋳１３０と加熱装置１４０とで構成される。

【００４７】

保持部材１１０は、特定部位を保持するものである。

特定部位は、衣服の特定の部位である。

例えば、特定部位は、ワイシャツの左右一対のカフ、ワイシャツの左右一対の袖、ワイシャツの衿、等である。

保持部材１１０は、特定部位を保持できるダミーまたは鋳である。

例えば、保持部材１１０は、鋳を兼ねる。

【００４８】

霧吹き機器１２０は、特定部位に霧吹きできる機器である。

霧吹き機器１２０が、保持部材１１０に保持された特定部位に霧吹きできてもよい。

霧吹き機器１２０は、霧吹き用ノズル１２１をもつ。

霧吹き用ノズル１２１から吹かれた霧状の液体は特定部位に付着する。

【００４９】

鋳１３０は、保持部材１１０に保持された特定部位をプレスできるものである。

鋳１３０は、後述する加熱装置１４０により加熱されてもよい。

【００５０】

加熱装置１４０は、保持部材１１０に保持された特定部位を鋳でプレス状態で特定部位を加熱する機器である。

例えば、加熱装置１４０は、鋳１３０を加熱して、保持部材１１０に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する。

例えば、加熱装置１４０は、鋳１３０にスチームを導入して、保持部材１１０に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する。

【００５１】

次に、本発明の第二の実施形態にかかる業務用加熱プレス機１００を、図を基に、説明する。

図６は、本発明の第二の実施形態に係る業務用加熱プレス機のシステム図である。

【００５２】

本発明の第二の実施形態にかかる加熱プレス機は、衣服を業務としてクリーニングするために衣服の特定の部位である特定部位を加熱プレスするものである。

本発明の第二の実施形態にかかる加熱プレス機は、保持部材１１０と霧吹き機器１２０と鋳１３０と加熱装置１４０と往来機器１５０とで構成される。

【００５３】

保持部材１１０は、特定部位を保持するものである。

特定部位は、衣服の特定の部位である。

例えば、特定部位は、ワイシャツの左右一対のカフ、ワイシャツの左右一対の袖、ワイシャツの衿、等である。

保持部材１１０は、特定部位を保持できるダミーまたは鋳である。

例えば、保持部材１１０は、鋳を兼ねていてもよい。

【００５４】

霧吹き機器１２０は、特定部位に霧吹きできる機器である。

霧吹き機器１２０が、保持部材１１０に保持された特定部位に霧吹きできてもよい。

【００５５】

鋳１３０は、保持部材１１０に保持された特定部位をプレスできるものである。

鋳１３０は、後述する加熱装置１４０により加熱されてもよい。

【００５６】

加熱装置１４０は、保持部材１１０に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定

10

20

30

40

50

部位を加熱する機器である。

例えば、加熱装置 140 は、鋳 130 を加熱して、保持部材に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する。

例えば、加熱装置 140 は、鋳 130 にスチームを導入して、保持部材 110 に保持された特定部位を鋳でプレスした状態で特定部位を加熱する。

【0057】

往来機器 150 は、保持部材と鋳との相対位置を第一ポジションと第二ポジションとの間で往来させる機器である。

保持部材 110 と鋳 130 との相対位置が第一ポジションに位置するときに特定部位を保持部材 110 で保持できる。

保持部材 110 と鋳 130 との相対位置が第二ポジションに位置するときに鋳 130 で保持部材 110 に保持された特定部位をプレスできる。

【0058】

保持部材 110 と鋳 130 との相対位置が第一ポジションから第二ポジションへ移動する過程のどこかで、霧吹き機器 120 が保持部材 110 に保持された特定部位に霧吹きできてもよい。

【0059】

また、本発明の実施形態に係る業務用クリーニング方法は、その構成により、以下の効果を有する。

衣服を洗い、洗われた衣服を熱風で乾燥し、乾燥した衣服の特定部位に霧吹きし、霧吹きされた特定部位を加熱プレスする様にしたので、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

また、保持部材 110 と鋳 130 との間に衣服を挟んで加熱プレスする加熱プレス機を用い、乾燥した衣服の特定部位を保持部材に保持され、そこを鋳でプレスし霧吹きされた特定部位を加熱プレスする様にしたので、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

また、保持部材 110 に保持された乾燥した衣服の特定部位に霧吹きする様にしたので、容易に特定部位に霧吹きできる。

また、一つの衣服について洗い工程と乾燥工程と成形工程とを実施し、成形工程で複数の特定部位の各々毎にセット工程と霧吹き工程と加熱プレス工程と繰り返す様にしたので、一つの衣服について最適の熱量の入力によって衣服をクリーニングできる。

【0060】

また、本発明の実施形態に係る業務用加熱プレス機は、その構成により、以下の効果を有する。

霧吹きされた特定部位が保持部材 110 に保持され、保持部材 110 に保持された特定部位を鋳 130 でプレスして、その状態で特定部位を加熱する様にしたので、加熱前に乾燥した衣服の特定部位に霧吹きすることで、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに必要十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

必要十分な熱量は、脱水した衣服を加熱プレスする従来のクリーニング方法の場合の熱量にくらべて少ない。

その結果、衣服の生地につやがでる。

また、霧吹き機器 120 が保持部材 110 に保持された特定部位に霧吹きできる様にしたので、容易に特定部位に霧吹きできる。

第一ポジションに位置する保持部材 110 に特定部位を保持され、特定部位が霧吹きされ、往来して第二ポジションに位置する保持部材 110 に保持された特定部位を鋳 130 でプレスし、加熱プレスする様にしたので、加熱前に乾燥した衣服の特定部位に霧吹きすることで、霧吹きした結果として付着した液滴を除去するのに十分な熱量を加えて衣服をプレスすることができる。

また、保持部材 110 が第一ポジションから第二ポジションへ移動する過程のどこかで、保持部材 110 に保持された特定部位に霧吹きできる様にしたので、容易に特定部位に

10

20

30

40

50

霧吹きできる。

【0061】

本発明は以上に述べた実施形態に限られるものではなく、発明の要旨を逸脱しない範囲で各種の変更が可能である。

図7、図8、図9は、既存の業務用加熱プレス機に本願の発明を適用した例を示す。

図7は、シングルボデイプレスに本願の発明を適用したものである。

図7は、ノズル121が胴体を模したダミーである保持部材110の前側と後側に配置される様子を示す。

図8は、シングルカラーカフスプレスに本願の発明を適用したものである。

図8は、ノズル121が下鋺137である保持部材110の斜め上方に配置される様子
を示す。 10

図9は、シングルタックスリーブプレスに本願の発明を適用したものである。

図9は、ノズル121が左右の腕部を模したダミーである保持部材110の左右にそれぞれ配置される様子を示す。

図7の破線は、保持部材と鋺との相対位置が第一ポジションにある様子を示している。

図7の実線は、保持部材と鋺との相対位置が第二ポジションにある様子を示している。

図7、図8、図9において、加熱装置140は、スチーム配管141とスチーム入口142とで構成される。スチーム入口142は工場のスチーム供給機器に連結する。

図7において、保持部材110は人体の胴体の形状を模したダミーである。

図8において、保持部材110は下鋺である。 20

図9において、保持部材110は人体の腕の形状を模したダミーである。

【符号の説明】

【0062】

100 業務用加熱プレス機

110 保持部材

120 霧吹き機器

130 鋺

131 前鋺

132 後鋺

133 タック鋺

134 肩鋺

135 カラー鋺

136 上鋺

137 下鋺

140 加熱装置

141 スチーム配管

142 スチーム入口

150 往來機器

S10 準備工程

S20 洗い工程

S30 乾燥工程

S40 成形工程

S41 セット工程

S42 霧吹き工程

S43 加熱プレス工程

【先行技術文献】

【特許文献】

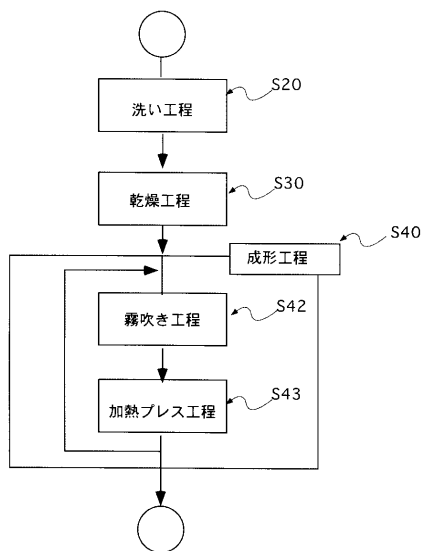
【0063】

【特許文献1】特開2003-126599号

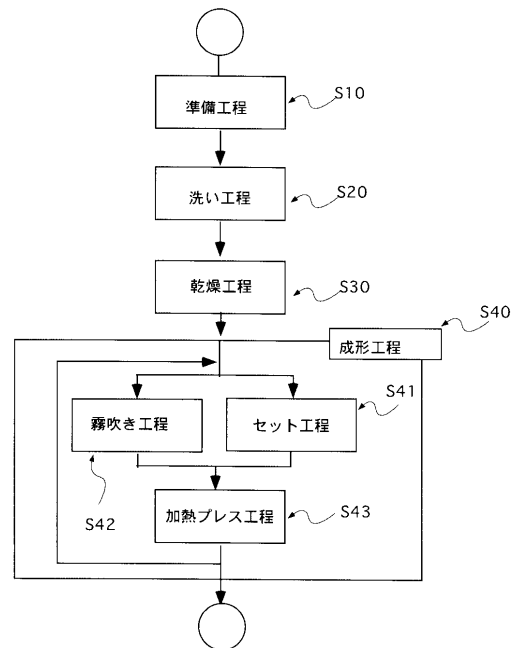
【特許文献2】特開2006-141744号

【特許文献 3】特開平 1 1 - 2 7 9 9 3 4 号

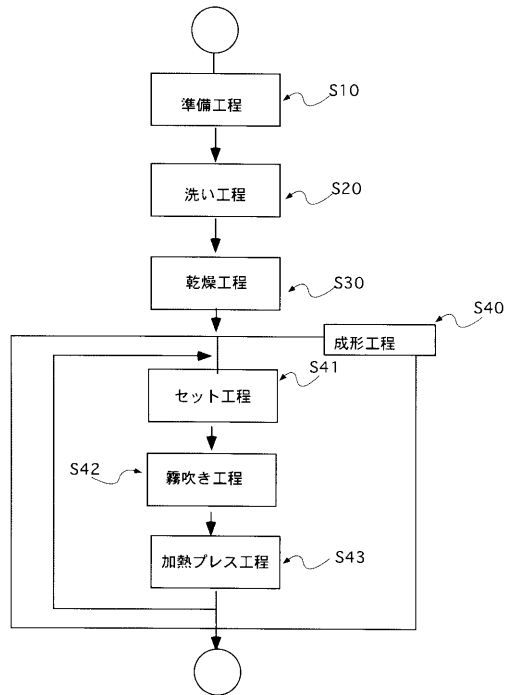
【図 1】



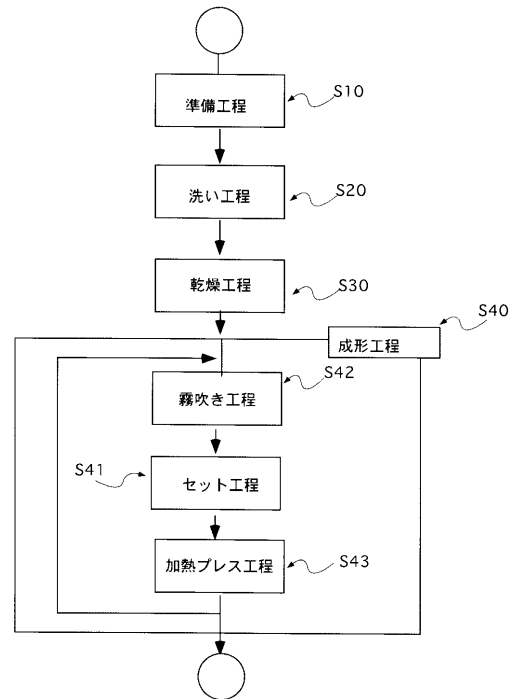
【図 2】



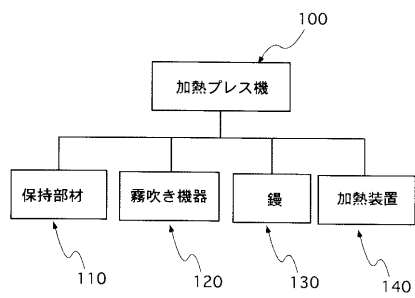
【図 3】



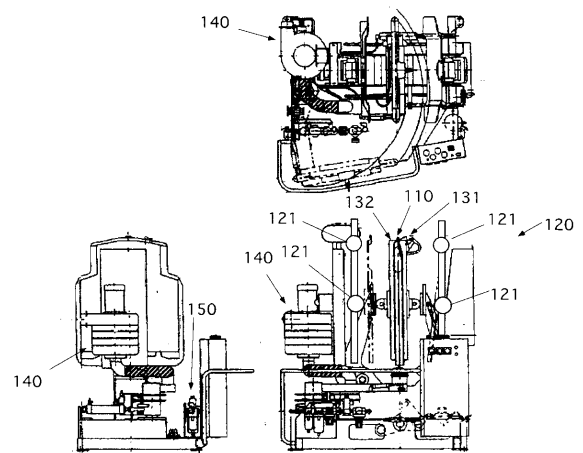
【図 4】



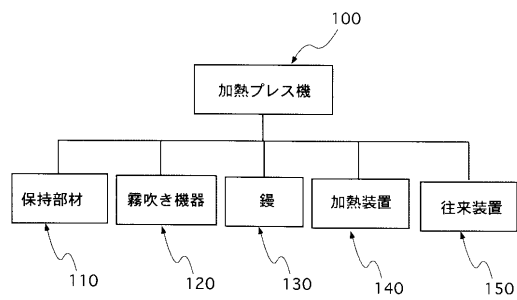
【図 5】



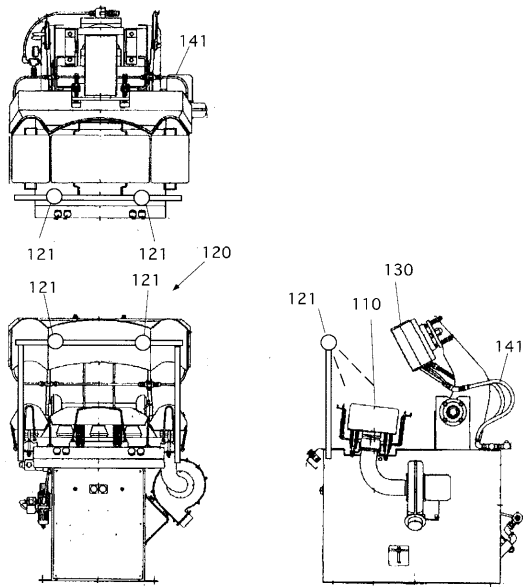
【図 7】



【図 6】



【図 8】



【図 9】

